

ワークショップ“草と木の調査”活動報告 万台こゆるぎの森の植物

* 北水 慶一

1.はじめに

大磯町郷土資料館では、平成11年度から本町全域の植物の目録化を目指し、ワークショップ「草と木の調査」の活動を行なっている。これまでに第1次調査 秋の植物分布調査〔平成11年度・12年度〕、第2次調査 県立大磯城山公園の植物調査〔平成13年度～17年度〕を実施し、平成18年度からは第3次調査として、万台こゆるぎの森の植物調査を実施している。

万台こゆるぎの森は大磯町のほぼ中央に位置する約9haの森林公園である。現在、大磯町が所有しているが、これまでには昭和31年にカトリック・マリア修道会が用地を購入し、修道院・修練院を建造するなど用地整備が進められ、昭和48年からは野村證券研修所として利用されるようになった。その後、平成9年に研修所としての利用を停止し、平成15年に所有が大磯町へと移っている。町に所有が移った当初は、旧野村證券研修所跡地という名で呼称されたが、平成17年度に名前を公募し、『万台こゆるぎの森』と名づけられ、月曜日を除く毎日、一般開放されるようになった。

第3次調査である万台こゆるぎの森の植物調査は、まさに万台こゆるぎの森と命名された直後から開始したものであり、現状が把握されていない植生を記録することを目的とした。開始した当初、一般開放は始まっていたものの利用者は少なく、ワークショップで植物調査を行なうことが同園の利用の活性化に繋がっていたようである。

その後、民間活力を活かした用地整備が進められ、整備活用と緑地保全を図る民間事業者を募集。平成20年5月に事業者として学校法人 国際学園が選ば



万台こゆるぎの森での調査の様子(平成19年8月11日撮影)

れた。今後、星槎大学のキャンパスとして整備されていく予定である。

万台こゆるぎの森の植物調査は当初、平成18年度から平成21年度までの4年計画で進める予定でいた。平成18年度を予行調査、平成19年度・20年度を本調査、平成21年度を補足調査と位置づけたものであったが、平成20年度内に大方の補足調査を終えたこともあって、平成18年度から20年度まで3年間の調査の結果をもとに記録をまとめることにした。

2. 調査の種類と方法

① 花暦調査（予行調査）

万台こゆるぎの森の立地の把握並びに花暦調査を実施するうえでの問題点抽出のため、平成18年6月から10月までの期間、予行調査を行なった。

<調査方法>

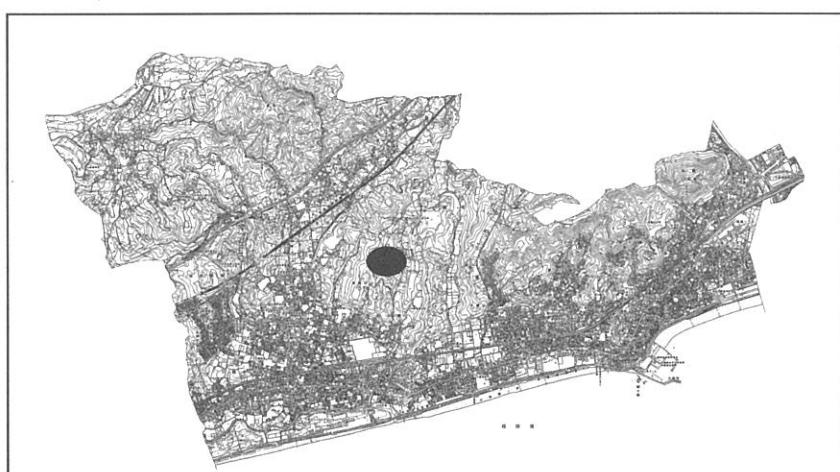
調査に先立ち、立入禁止区域以外の場所で一般来場者が巡回できる区域を3つに分け、それぞれの区域をA区、B区、C区と名づけた。調査は毎月1回、第2土曜日を中心に行なった。毎回、参加者全員で各区域を巡回し、開花確認調査を行なった。

② 花暦調査（本調査）

万台こゆるぎの森の花暦を作成するため開花の確認調査を行なった。調査は平成19年1月上旬から平成20年12月下旬まで実施した。

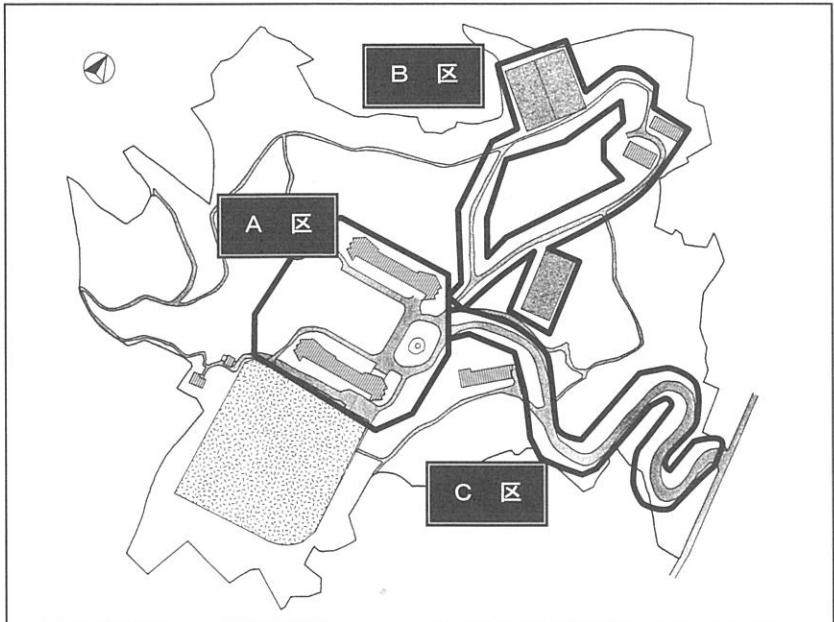
<調査方法>

予行調査と同様にA区～C区の3区域に分けて調査を進めた。本調査では、各月を上旬・中旬・下旬の3期に分けて、詳細なデータを得るようにした。



万台こゆるぎの森の位置図(大磯町発行「大磯町全図(1万分の1)」を縮小して使用)

(* 当館学芸員)



万台こゆるぎの森の調査地の区分け

各調査区域の施設概要
 A区：修道院・修練院・臨時駐車場周辺
 B区：畜舎・倉庫・テニスコート周辺
 C区：入口から臨時駐車場までの経路



(B区)畜舎(平成19年4月15日撮影)



(A区)臨時駐車場(平成19年1月7日撮影)



(B区)園路(平成19年4月15日撮影)



(B区)テニスコート周辺(平成19年4月15日撮影)

データ収集はワークショップ参加者による合同調査と郷土資料館職員による個別調査の2通りの方法で実施した。

i) ワークショップ参加者による合同調査

毎月1回、第2（もしくは第4）土曜日にワークショップ参加者による合同調査を行なった。各区域を巡回し、区域ごとに開花を確認した植物の種名および開花していた株数を記録していく。

ii) 郷土資料館職員による個別調査

各月上旬・中旬・下旬の3期のうち、ワークショップで調査しきれない2期分を郷土資料館職員が調査した。方法は合同調査と同様のやり方で進めた。

③ 樹木調査

平成18年度の調査で万台こゆるぎの森の園路沿いで目立つ樹木、特徴的な樹木の種名を調べるとともにそれぞれの樹幹直径を計測した。平成19年度の調査では、前年度記録した樹木の樹高を計測した。樹高の計測には、ワイヤー式測高器を使用した。

④ 補足調査

平成21年1月から3月の間、これまでの調査で不

備が確認されたデータについて、再度調査を行ない、加筆・修正をした。

3. 調査の結果

① 花曆調査の結果

A区、B区、C区の順で、平成19年（2007）1月上旬から平成20年（2008）12月下旬までの調査結果を示している。

<表の見方>

i) 黒く塗りつぶしてある箇所が開花を確認した時期。丸印は状況を表わしている。

- 調査区域内で開花を確認した株数が10株以上。
- ◎ 調査区域内で開花を確認した株数が5株以上10株未満。
- 調査区域内で開花を確認した株数が5株未満。

ii) 樹木については、目視による開花状況の判定を行なった。

(△) : 咲き始め

(+) : 満開

(-) : 盛りがすぎた状態

A区（修道院・修練院・臨時駐車場周辺）

B区（畜舎・倉庫・テニスコート周辺）

C区（入口から臨時駐車場まで）

No.	品種名 品種名	時期												時期												
		1月 上旬 中旬 下旬	2月 上旬 中旬 下旬	3月 上旬 中旬 下旬	4月 上旬 中旬 下旬	5月 上旬 中旬 下旬	6月 上旬 中旬 下旬	7月 上旬 中旬 下旬	8月 上旬 中旬 下旬	9月 上旬 中旬 下旬	10月 上旬 中旬 下旬	11月 上旬 中旬 下旬	12月 上旬 中旬 下旬	1月 上旬 中旬 下旬	2月 上旬 中旬 下旬	3月 上旬 中旬 下旬	4月 上旬 中旬 下旬	5月 上旬 中旬 下旬	6月 上旬 中旬 下旬	7月 上旬 中旬 下旬	8月 上旬 中旬 下旬	9月 上旬 中旬 下旬	10月 上旬 中旬 下旬	11月 上旬 中旬 下旬	12月 上旬 中旬 下旬	
1	アイコセンダングサ	2007年 1/5 1/13 1/25 2/10 2/20 2/25 3/10 3/16 3/27 4/6 4/14 4/30 5/9 5/16 5/26 6/9 6/19 6/29 7/6 7/19 7/31 8/10 8/11 8/29 9/8 9/21 9/27 10/10 10/13 10/30 11/10 11/15 11/27 12/4 12/14 12/27	2008年 1/10 1/18 1/31 2/9 2/16 2/28 3/7 3/18 3/27 4/4 4/12 4/30 5/8 5/16 5/28 6/6 6/19 6/28 7/10 7/18 7/26 8/7 8/14 8/23 9/5 9/18 9/25 10/9 10/19 10/25 11/8 11/18 11/22 12/5 12/13 12/24	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○	●	○
2	アオキ	2007年 2008年	○(+)	○(-)																						
3	アカネ	2007年 2008年																								
4	アカメガシワ	2007年 2008年																								
5	アキカラツツ	2007年 2008年																								
6	アキノエノコログサ	2007年 2008年																								
7	アキノゲシ	2007年 2008年																								
8	アジサイ	2007年 2008年																								
9	イヌコウジュ	2007年 2008年																								
10	イヌタデ	2007年 2008年																								
11	イヌビュ	2007年 2008年																								
12	イヌホオズキ	2007年 2008年	○ ○ ○																							
13	イヌムギ	2007年 2008年		○ ○ ○																						
14	イロハモミジ	2007年 2008年	○(+)	○(+)																						
15	ウシハコベ	2007年 2008年																								
16	ウメ	2007年 2008年	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)	○(△) ○(△) ○(△)		
17	エゴノキ	2007年 2008年																○(+)								
18	エノキグサ	2007年 2008年																								
19	エノコログサ	2007年 2008年																								
20	エビネ	2007年 2008年																								
21	オオアレチノギク	2007年 2008年																								
22	オオイヌノグリ	2007年 2008年	○ ○ ○	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●									
23	オオサカズキ (ツバキの一品種)	2007年 2008年															○(+) ○(+)	○(+)								
24	オオジンバイ	2007年 2008年																●								
25	オオシマザクラ系サザクラ (ヤエザクラ)	2007年 2008年															○(+) ●(+)	○(-) ●(+)								
26	オオニシキソウ	2007年 2008年																								
27	オオムラサキ (ヒトツヅジの一品種)	2007年 2008年															○(+) ●(+)	○(+) ●(+)	○(+) ●(+)							
28	オシロイバナ	2007年 2008年																								
29	オッタチカタバミ	2007年 2008年																								
30	オニタビラコ	2007年 2008年	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○		
31	オニドコロ	2007年 2008年																								
32	オニノゲン	2007年 2008年															○									
33	オヤブジラミ	2007年 2008年															○ ○	● ●	● ●							
34	オランダミニガサ	2007年 2008年																								
35	ガガイモ	2007年 2008年																								
36	カタバミ	2007年 2008年															○									
37	カナムグラ	2007年 2008年															○									
38	ガマズミ	2007年 2008年															○(+)									
39	カモガヤ	2007年 2008年															○ ○	● ●	● ●							
40	カモジグサ	2007年 2008年																●	○ ○	● ●						
41	カラシナ	2007年 2008年															○ ○	○ ○	○ ○							
42	カラスウリ	2007年 2008年																								
43	カラスピシャク	2007年 2008年																								
44	カントウタンボボ	2007年 2008年	○ ○ ○	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●	● ● ●										
45	カンスゲ	2007年 2008年																								
46	キジムシロ	2007年 2008年															○ ○	● ●	● ●							
47	キブシ	2007年 2008年															○(△) ○(+) ○(+)	○(+) ○(+) ○(-)	○(+) ○(+) ○(-)							
48	キユウリグサ	2007年 2008年															○		● ●							
49	キランソウ	2007年 2008年															● ●	○ ○	● ●							
50	キンエノコロ	2007年 2008年																								
51	キンモクセイ	2007年 2008年																								
52	ギンミズヒキ	2007年 2008年																								
53	クサイチゴ	2007年 2008年															● ●	● ●	● ●							
54	クサギ	2007年 2008年																								
55	クヌギ	2007年 2008年															○(+)									
56	クマノミズキ	2007年 2008年																○(+)								
57	クリ	2007年 2008年															○(△) ○(△)	○(+)	○(-)							
58	クワクサ	2007年 2008年																	○(+)							
No.	種名、 品種名	調査日 2007年 1/10 1/18 1/31 2/16 2/28 3/7 3/18 3/27 4/4 4/12 4/30 5/8 5/16 5/28 6/6 6/19 6/28 7/10 7/18 7/26 8/7 8/14 8/23 9/5 9																								

② 樹木調査の結果

万台こゆるぎの森で特徴的な樹木、園路沿いで目立つ樹木を選び、樹木の位置を地図上にプロットするとともに樹幹の直径と樹高を計測し、表にまとめた。

<表の見方>

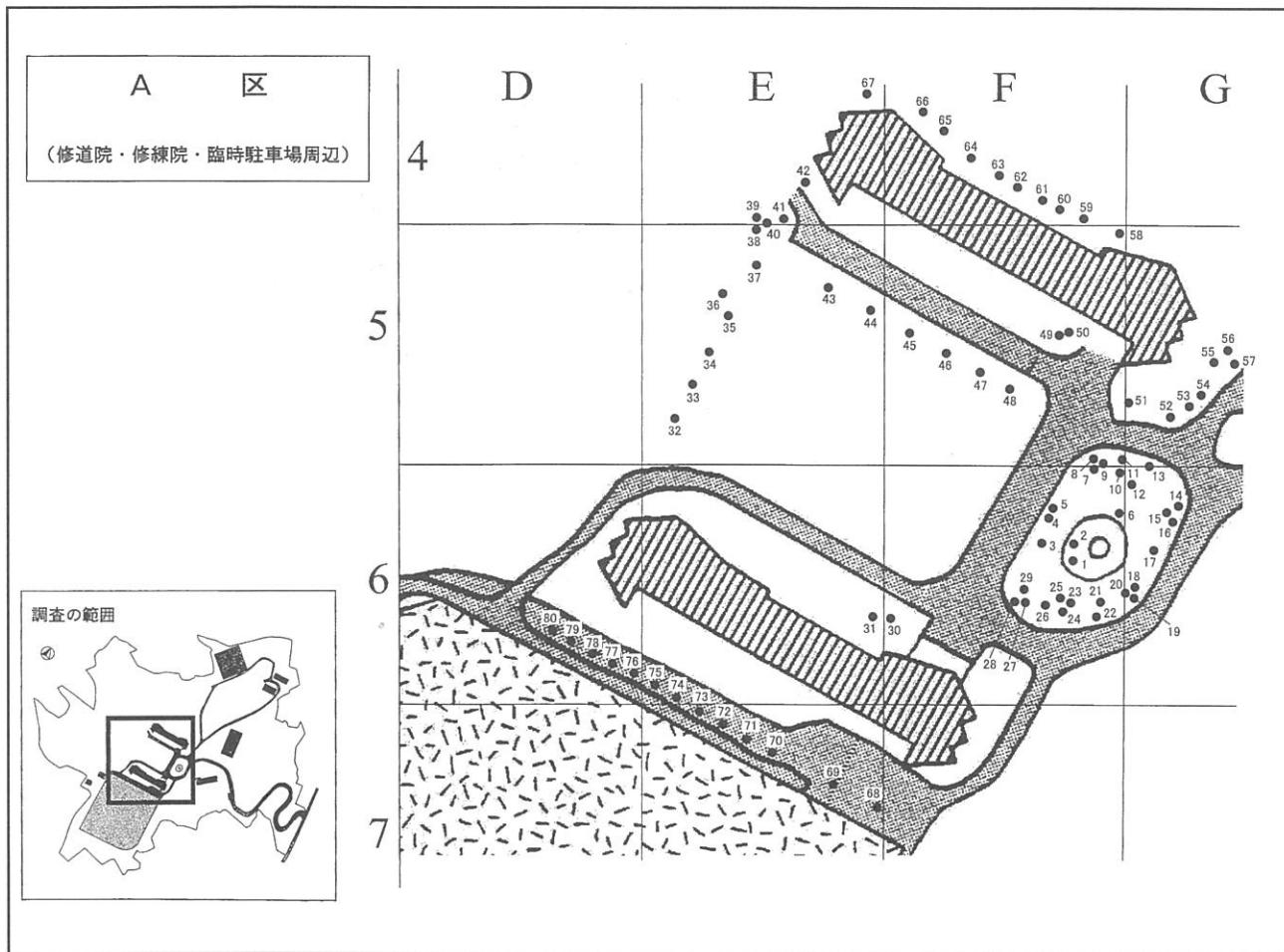
- i) 樹幹の形状は単幹状、株立状、分幹状の3タイプに分類し、備考欄に形状を記載した。
- ii) 樹幹の直径は地上部 約1m30cmの位置で計測した。分幹状のものについては、A区では単幹状のものと同様に約1m30cmの位置で、B、C区では分岐位置で計測した。したがって、A区の表で分幹状のものの樹幹直径は複数の数値が記してある。



樹木調査の様子（平成20年2月23日撮影）

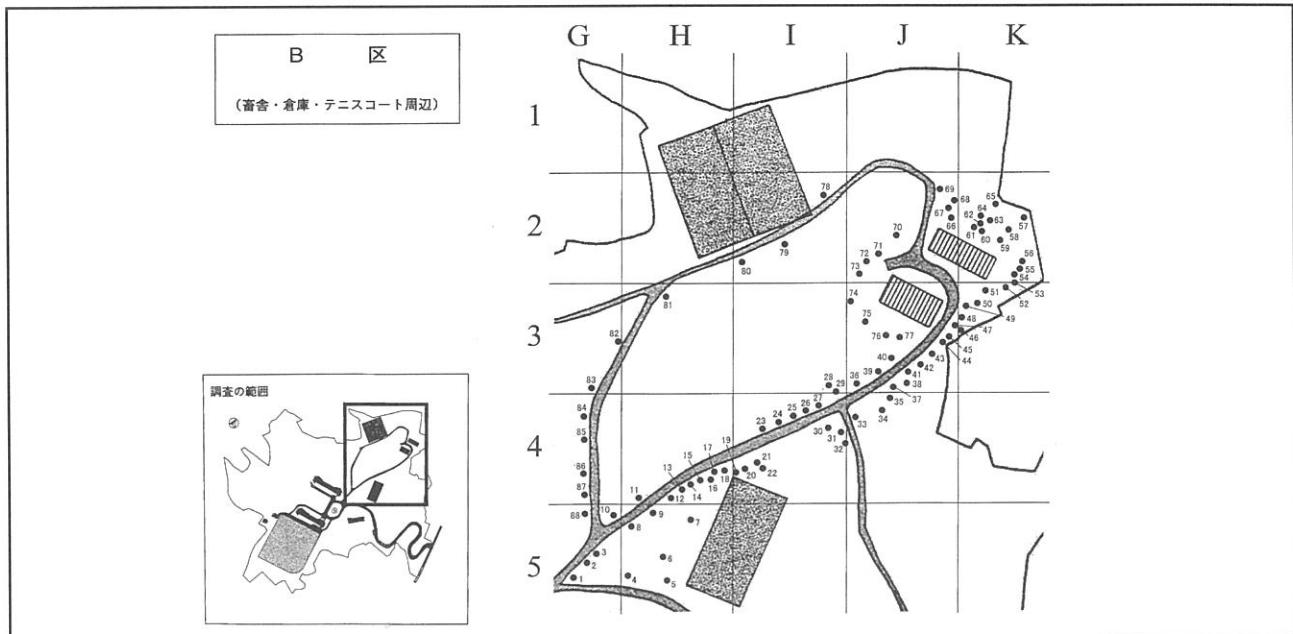
No.	種名	樹幹直徑(cm)	樹高(m)	備考
1	シラカシ	38	14.5	単幹状
2	シラカシ	40	14.5	単幹状
3	イブキ	25	6.5	単幹状
4	イブキ	19	6.5	単幹状
5	イブキ	23	6.5	単幹状
6	ケヤキ	31	15.0	単幹状
7	イブキ	19	7.0	単幹状
8	イブキ	19	7.0	単幹状
9	イブキ	23	7.0	単幹状
10	イブキ	21	6.0	単幹状
11	サクラ	55	12.0	単幹状
12	シラカシ	38	15.0	単幹状
13	ヒマラヤスギ	73	17.5	単幹状
14	イブキ	20	6.5	単幹状
15	イブキ	17	6.5	単幹状
16	イブキ	11	6.5	単幹状
17	サクラ	47	18.0	単幹状
18	イブキ	14	5.5	単幹状
19	イブキ	16	5.5	単幹状
20	イブキ	8	5.5	単幹状
21	クスノキ	69	16.0	単幹状
22	カイヅカイブキ	18	6.0	単幹状
23	カイヅカイブキ	15	6.5	単幹状
24	カイヅカイブキ	19	6.5	単幹状
25	カイヅカイブキ	10	6.5	単幹状
26	サクラ	(10, 8, 10, 10)	8.0	分幹状(高さ約25cmの位置から分幹)
27	トベラ	(11, 14)	7.5	分幹状(高さ約40cmの位置から分幹)
28	クロマツ	10	5.0	単幹状
29	ソテツ	(22, 30, 20)	2.5	分幹状(高さ約65cmの位置から分幹)
30	キンモクセイ	(19, 14, 21, 14, 15)	9.5	分幹状(高さ約10cmの位置から分幹)
31	センダン	32	10.5	単幹状
32	クスノキ	64	15.5	単幹状
33	クスノキ	(23, 48, 71)	17.5	分幹状(高さ約45cmの位置から分幹)
34	クスノキ	61	17.5	単幹状
35	クスノキ	(58, 100)	20.5	分幹状(高さ約50cmの位置から分幹)
36	スギ	17	13.5	単幹状
37	スギ	25	14.0	単幹状
38	スギ	25	11.5	単幹状
39	スギ	30	11.5	単幹状
40	ヒノキ	23	15.0	単幹状
41	ヒマラヤスギ	61	17.5	単幹状
42	ヒマラヤスギ	57	20.5	単幹状
43	カイヅカイブキ	31	7.5	単幹状
44	カイヅカイブキ	(31, 15)	7.5	株立状
45	カイヅカイブキ	29	7.5	単幹状
46	カイヅカイブキ	26	6.5	単幹状
47	カイヅカイブキ	27	7.0	単幹状
48	カイヅカイブキ	27	6.5	単幹状

A区(修道院・修練院・臨時駐車場周辺)の樹木調査の結果(その1)



No.	種名	樹幹直徑(cm)	樹高(m)	備考
49	ヤブツバキ	(7, 7, 5, 8, 4, 4, 6)	4.5	分幹状(高さ約10cmの位置から分幹)
50	ツバキ	(5, 4)	3.5	分幹状(高さ約95cmの位置から分幹)
51	シラカシ	46	14.5	単幹状
52	ヒマラヤスギ	63	19.0	単幹状
53	クスノキ	12	9.5	単幹状
54	モチノキ	23	5.5	単幹状
55	ムクノキ	12	4.5	単幹状
56	コブシ	(14, 23, 45)	12.0	分幹状(高さ約15cmの位置から分幹)
57	モッコク	(6, 6, 7, 6, 7, 6)	4.0	分幹状(高さ約80cmの位置から分幹)
58	ゴンズイ	29	10.5	単幹状
59	ゴンズイ	34	8.0	単幹状
60	イタヤカエデ	(18, 21)	10.5	分幹状
61	グッケイジュ	(6, 10)	4.5	分幹状
62	イロハモミジ	33	13.0	単幹状
63	ホオノキ	39	16.0	単幹状
64	イロハモミジ	24	12.0	単幹状
65	イロハモミジ	23	11.0	単幹状
66	ヤマグワ	34	8.0	単幹状
67	クマノミズキ	7	—	単幹状、2007年2月伐倒
68	クスノキ	124	21.0	分幹状(高さ約70cmの位置から分幹)
69	ヒマラヤスギ	78	19.0	単幹状
70	ヒマラヤスギ	61	19.0	単幹状
71	ヒマラヤスギ	44	19.0	単幹状
72	ヒマラヤスギ	59	19.0	単幹状
73	ヒマラヤスギ	54	19.0	単幹状
74	ヒマラヤスギ	48	19.0	単幹状
75	ヒマラヤスギ	50	19.0	単幹状
76	ヒマラヤスギ	55	19.0	単幹状
77	ヒマラヤスギ	42	19.0	単幹状
78	ヒマラヤスギ	59	19.0	単幹状
79	ヒマラヤスギ	54	19.0	単幹状
80	ヒマラヤスギ	58	19.0	単幹状

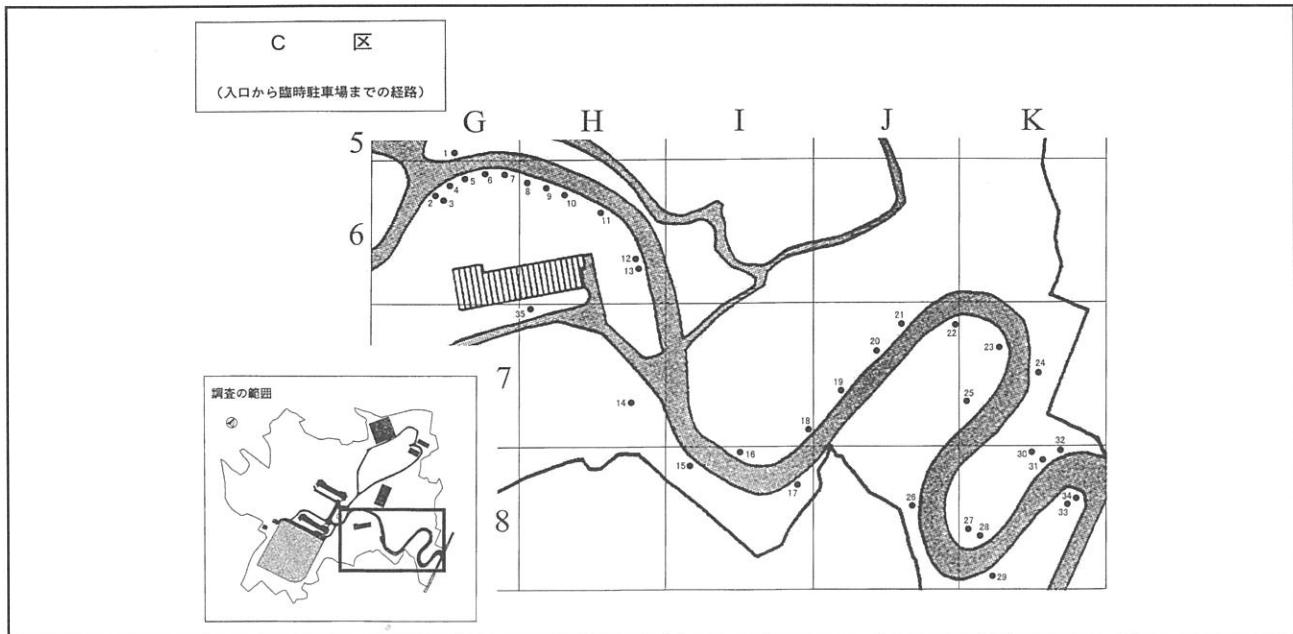
A区(修道院・修練院・臨時駐車場周辺)の樹木調査の結果(その2)



No.	種名	樹幹直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヒマラヤスギ	69	20.0	単幹状
2	ヒマラヤスギ	65	19.0	単幹状
3	ヒマラヤスギ	62	19.0	単幹状
4	ヒマラヤスギ	61	20.5	単幹状
5	ヒマラヤスギ	62	16.0	単幹状
6	サクラ	79	18.0	分幹状。約30cmの位置で計測
7	エノキ	32	14.0	単幹状
8	ヒマヤラスギ	71	17.5	単幹状
9	ヒマラヤスギ	23	17.5	単幹状
10	ヒマラヤスギ	68	19.0	単幹状
11	サワラ	30	17.5	単幹状
12	クヌギ	38	19.0	単幹状
13	クヌギ	28	15.5	単幹状
14	コナラ	24	10.0	単幹状
15	クヌギ	59	18.0	分幹状。約70cmの位置で計測
16	オオバヤシャブシ	42	10.0	分幹状。約40cmの位置で計測
17	クヌギ	25	12.0	単幹状
18	コナラ	40	19.5	単幹状
19	クヌギ	46	20.0	単幹状
20	クヌギ	39	18.0	単幹状
21	スギ	23	14.0	単幹状
22	クヌギ	36	19.5	単幹状
23	サワラ	28	14.0	単幹状
24	サワラ	29	14.5	単幹状
25	サワラ	32	16.0	単幹状
26	サワラ	45	16.5	単幹状
27	ミズキ	30	11.5	単幹状
28	ミズキ	32	13.0	単幹状
29	サワラ	33	15.5	単幹状
30	ヒノキ	50	14.0	分幹状。約60cmの位置で計測
31	マテバシイ	60	11.5	分幹状。約20cmの位置で計測
32	モチノキ	30	10.5	分幹状。約80cmの位置で計測
33	メタセコイア	77	20.0	分幹状。約95cmの位置で計測
34	サクラ	85	12.5	分幹状。約60cmの位置で計測
35	サクラ	61	16.0	単幹状
36	サンゴジュ	32	10.0	分幹状。約20cmの位置で計測
37	コナラ	27	14.0	単幹状
38	ミズキ	40	21.0	単幹状
39	サンゴジュ	35	11.0	分幹状。約50cmの位置で計測
40	サクラ	91	15.5	単幹状
41	クヌギ	30	12.0	単幹状
42	クヌギ	30	16.5	単幹状
43	サクラ	86	15.5	分幹状。約35cmの位置で計測
44	ミズキ	42	11.5	分幹状。約45cmの位置で計測

No.	種名	樹幹直径(cm)	樹高(m)	備考
45	サクラ	75	14.0	分幹状。約35cmの位置で計測
46	ミズキ	51	17.5	単幹状
47	クヌギ	45	16.0	単幹状
48	サクラ	36	9.5	単幹状
49	ヒイラギモクセイ	25	6.0	分幹状。約60cmの位置で計測
50	ヒノキ	38	11.0	単幹状
51	アカメガシワ	30	11.0	単幹状
52	クヌギ	41	16.5	単幹状
53	エノキ	53	18.0	単幹状
54	ミズキ	52	16.0	分幹状。約45cmの位置で計測
55	クマノミズキ	62	17.0	分幹状。約80cmの位置で計測
56	クヌギ	35	14.5	単幹状
57	カラスザンショウ	—	5.0	単幹状。
58	クヌギ	47	21.0	単幹状
59	サクラ	64	18.5	単幹状
60	ヤシャブシ	37	12.0	単幹状
61	ヤシャブシ	68	10.0	分幹状。約55cmの位置で計測
62	ヤシャブシ	50	13.0	単幹状
63	サクラ	39	—	単幹状、2007年2月伐倒
64	クマノミズキ	41	13.5	単幹状
65	オオシマザクラ	75	15.5	単幹状
66	クヌギ	36	17.0	単幹状
67	ミズキ	47	16.0	分幹状。約80cmの位置で計測
68	ヒサカキ	15	3.0	単幹状
69	クスノキ	139	19.0	分幹状。約80cmの位置で計測
70	カキノキ	25	9.5	単幹状
71	クヌギ	55	22.5	単幹状
72	クヌギ	55	23.5	単幹状
73	コナラ	77	14.0	単幹状
74	エノキ	37	16.0	単幹状
75	サワラ	54	15.0	単幹状
76	イチョウ	89	17.5	分幹状。約110cmの位置で計測
77	モチノキ	28	10.0	単幹状
78	モッコク	17	4.5	分幹状。約35cmの位置で計測
79	クヌギ	48	21.0	単幹状
80	クヌギ	49	23.5	単幹状
81	スダジイ	39	13.0	単幹状
82	ヤマザクラ	74	11.0	分幹状。約35cmの位置で計測
83	サクラ	52	17.5	分幹状。約40cmの位置で計測
84	サクラ	69	16.0	分幹状。約20cmの位置で計測
85	サワラ	47	13.5	単幹状
86	ヒマラヤスギ	75	19.5	単幹状
87	ヒマラヤスギ	64	16.0	単幹状
88	ヒマラヤスギ	68	14.5	単幹状

B区(畜舎・倉庫・テニスコート周辺)の樹木調査の結果



No.	種名	樹幹直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヒマラヤスギ	70	18.5	単幹状
2	イヌガヤ	22	11.5	単幹状
3	サクラ	89	17.0	分幹状。約80cmの位置で計測
4	サクラ	100	19.0	分幹状。約40cmの位置で計測
5	ヒマラヤスギ	62	19.5	単幹状
6	サワラ	38	15.5	単幹状
7	メタセコイア	83	23.5	単幹状
8	イスマキ	17	7.0	単幹状
9	イスマキ	24	7.5	単幹状
10	メタセコイア	82	23.0	単幹状
11	メタセコイア	99	23.0	単幹状
12	スダジイ	46	18.5	分幹状。約85cmの位置で計測
13	サワラ	92	19.0	分幹状。約60cmの位置で計測
14	エノキ	115	18.0	単幹状
15	クヌギ	60	19.0	分幹状。約110cmの位置で計測
16	カイヅカイブキ	48	6.0	分幹状。約10cmの位置で計測
17	メタセコイア	73	20.0	単幹状
18	ミズキ	35	10.0	分幹状。約115cmの位置で計測

No.	種名	樹幹直径(cm)	樹高(m)	備考
19	ネムノキ	26	16.0	単幹状
20	クヌギ	33	21.0	単幹状
21	サクラ	32	7.5	分幹状。約120cmの位置で計測
22	ヒマラヤスギ	65	21.5	単幹状
23	ヒマラヤスギ	50	22.0	単幹状
24	コナラ	29	16.5	単幹状
25	スズカケノキ	53	24.5	単幹状
26	ミズキ	37	22.5	単幹状
27	サクラ	38	15.5	単幹状
28	サクラ	27	12.5	単幹状
29	ウメ	18	4.0	単幹状
30	マユミ	31	10.0	分幹状。約25cmの位置で計測
31	クヌギ	54	18.0	単幹状
32	イヌシデ	44	15.5	単幹状
33	ウメ	28	3.0	分幹状。約80cmの位置で計測
34	ウメ	29	5.0	分幹状。約90cmの位置で計測
35	タブノキ	66	15.0	単幹状

C区（入口から臨時駐車場までの経路）の樹木調査の結果

4.まとめ

3年をかけて、万台こゆるぎ森の植物を調べた。調査を開始した当初は人が進入できない期間がしばらく続いたため、荒廃した状況が見られたが、徐々に公園としての整備が進んでいった。植物の状況も調査開始当初は、特定の雑草しか見当たらなかったが、整備が進むにつれ、フデリンドウやラン数種なども確認できるようになった。毎回、同じコースを巡回し、開花状況を記録したが、常に新しい発見があり、有意義な活動が進められたと感じている。

ただし、調査の精度という点では、公園整備のため、下草刈りや枝卸しが積極的に進められたため、本来、開花しているはずの草花が刈られたり、樹木調査で樹幹の直径を計測したものが翌年には無くなっていたりと、人為的な影響が多分に見られた。

また、3年間の活動を通じてワークショップの合同の活動で腊葉標本の作製を2回実施したが、完成

したものは20数種と中途半端な状況となり、課題を残す結果となった。目録の作成では、根拠となる腊葉標本が必要であるため、今後、同様の活動を行なう際は、植物の収集にも力を入れていきたい。

最後に調査にご参加いただいた方のお名前を記して、感謝申し上げる。

宮川紀子・石井竹夫・外川敏子・大木幸子・川原一恵・平島靖士・鈴木昭夫・中村明子・中村ふぢ・真田弘・山本章博・山本正代・小寺美智子・村田愈子・松島まり子・村上敦子・吉川武士・高木千代美・鹿野光子・加藤君代・内山千代子・細井浩太・田中洋子・蓑島淳子・曾根ハツエ・福田良昭・石崎道子・関仲治・小野恵子・加藤喜規・菊池なつみ・高橋忠則・柳田利幸・小山由雄・星野正美・大久保武・大久保恵美子・和田美乃
(敬称略)

5. 参考文献

- 浅野貞夫・廣田伸七(2002)似た草 80 種の見分け方.
全国農村教育協会
- 岩瀬徹 (1998) 野山の樹木観察図鑑. 成美堂出版
- 岩瀬徹・鈴木庸夫 (1998) 野草・雑草観察図鑑. 成美堂出版
- 神奈川県植物誌調査会編 (2001) 神奈川県植物誌 2001. 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 北村四郎・村田源・堀勝 (1986) 原色日本植物図鑑・草本編 I. 保育社
- 北村四郎・村田源 (1987) 原色日本植物図鑑・草本編 II. 保育社
- 北村四郎・村田源・小山鐵夫 (1986) 原色日本植物図鑑・草本編 III. 保育社
- 北村四郎・村田源 (1987) 原色日本植物図鑑・木本編 I. 保育社
- 北村四郎・村田源 (1987) 原色日本植物図鑑・木本編 II. 保育社
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 (2001) 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会
- 馬場多久男 (1996) 冬芽でわかる落葉樹. 信濃毎日新聞社
- 林弥栄 (1989) 山渓カラーナンバー. 日本の樹木. 山と渓谷社
- 林弥栄ほか監修 (2003) 樹木 見分けのポイント図鑑. 講談社
- 林弥栄ほか監修 (2003) 野草 見分けのポイント図鑑. 講談社
- 菱山忠三郎 (2000) 街の樹木観察図鑑. 成美堂出版
- 廣田伸七(2000) ミニ雑草図鑑～雑草の見分け方～. 全国農村教育協会
- 牧野晩成 (2000) 自然観察シリーズ 野山の植物. 小学館
- 守矢淳一 (1989) ひらつか 野の花. 稲元屋
- 吉山寛・石川美枝子 (2000) 原寸イラストによる落葉図鑑. 文一総合出版

年 報

平成 20 年度

◇ 平成 22 年 3 月 30 日発行

◇ 編集・発行

大磯町郷土資料館

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1

TEL 0463(61)4700 FAX 0463(61)4660